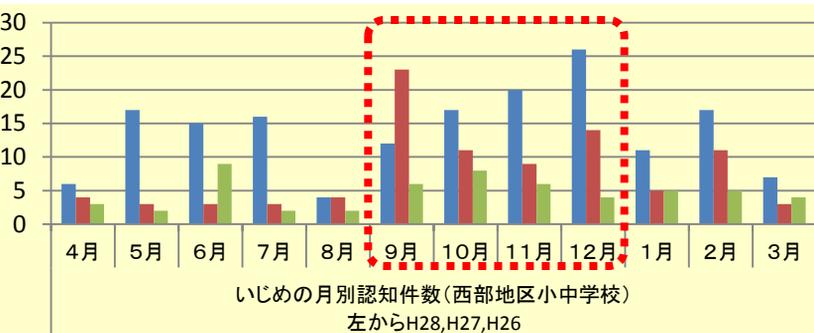


全ての孩子にとって居心地のよい学校づくり ～いじめの未然防止と早期発見で、全ての孩子が活躍する2学期へ～

様々な行事を通して孩子が成長する2学期。充実した学校生活の中で力を発揮している孩子がいる一方、「集団から孤立している」「表情が暗い」等、気がかりな言動や表情が見られる孩子はいませんか？



左のグラフを見ると、

2学期は、いじめの認知件数が1年間で多くなる時期である

ことが分かります。「気がかりな言動や表情の背景に、いじめがあるかもしれない」という視点をもって、個々の孩子や集団の些細な変化を敏感に捉え、いじめの未然防止と早期発見、適切な初期対応につなげましょう。



「鳥取県いじめ防止対策ガイドブック 笑顔でつながる」(鳥取県教育委員会)を参考に作成

気になる孩子や集団の姿(例)

いじめが潜んでいる可能性がある時に見られるサイン

- サインや隠語を使っている。
- 教師が近づくと、グループが不自然に分散したり、急に仲のよいふりをしたりする。
- 班や座席を決めるときにスムーズに決まらない。
- 班長やリーダーを決める時に立候補しない。
- 掲示物に落書きが見られたり、画鋲等で傷がつけられたりしている。等



いじめられている時に見られるサイン

- 笑ってごまかそうとする。
- 周囲に過度な気遣いがみられる。
- 行事の練習で見学することが多くなった。
- 用もないのに保健室や職員室などに来て時間を過ごすことが多くなった。等



「チーム学校」として夏休み明けの孩子を見取っていきましょう！！

孩子に対する教師の思い込みをリセットする



- * 問題行動が目立つ孩子や行事のリーダーとなる孩子に目が向き、アピールの無い孩子が置き去りにされていないか？
- * 教師から見て「困った孩子」は、実は「困っている孩子」ではないか？

夏休み中、学校から遠ざかっていた孩子の様子を注視する

- * 部活動に参加しなかったために、参加へのきっかけを失って距離感を感じている孩子がいらないか？

行事が多くなる時期こそ、きめ細かな指導を徹底する

- * 行事の練習やグループでの話し合い等を子供任せにしないで、事前・事後指導で子供の動きや様子を把握しているか？

いじめの早期発見につながるアンケートの活用例



【アンケート項目の例】

- ・ 学校が楽しいですか。
- ・ 先生に相談したいことがありますか。
- ・ 今、困っていることがありますか。
- ・ この頃、嫌な思いをしている友達はいませんか。

- ・ 無記名式
- ・ 選択式
- ・ 少ない項目数
- ・ 毎月一回実施



- ◆ 短時間で実施・集約ができる。
- ◆ ○をやるだけなので、書いている様子が周りの友達にも分からず、安心して回答できる。

ここがポイント

その日の内に確認 → さりげなく面談につなげる

- 教師が回収し、ある程度孩子が特定できるようにしておく。
- 個人が特定できない場合には、学年団による複数の目で子供の様子を観察する等、組織での対応を強化する。

「『いじめ防止に係る無記名アンケート』について」も参考にしてください。
※いじめ・不登校総合対策センターHPからダウンロードできます。

アンケート結果を生かした教師のアクションは、「先生は助けてくれるんだ」という教師への信頼や、何かあった時には次のアンケートで○をつけよう、という子供自らのシグナルの発信につながっていきます。